

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇6月16日～

先週は、米国と中国との関税交渉への期待感から週の前半はリスクオン相場となりました。
しかし、レアアースについても中国側の対応が将来的にどうなっていくのか不透明なところもあり、米中の関税交渉は特にプラスの材料は出てきませんでした。

結局、中国は55%(一律関税10%、合成麻薬フェンタニルに対する懲罰的な関税20%、第一次トランプ政権での関税25%)、米国は10%の関税がかかるということです。

日本との交渉はどうなるかわかりませんが貿易赤字国である英国に対しても10%の関税をかけているということは、全ての国に10%、さらに貿易黒字国については追加で関税がかかることになると思います。

英国の10%から中国の55%の間にどの国もおさまるといえるのでしょうか。

英国と中国とだけ関税交渉が終わりましたがアジアの貿易黒字国に対しても厳しい関税を要求してくる可能性があり、自動車の関税をさらに上げるというような話も出てきています。

日本が多少の投資や米国産の農産物を買ったところで、大幅に関税が下がるとは思えず、今年後半にかけて経済はかなり冷え込む可能性があります。

4月中旬以降は比較的楽観的な雰囲気だった相場も急変するかもしれません。

今週はカナダでG7サミットが開催され、日米首脳会談も予定されています。

そして、もう1つの懸念事項である地政学リスクですがイランとイスラエルがほぼ戦争状態突入という状況になってきました。

イスラエルがイランの核施設を攻撃したことでイランも反撃を開始しました。

先週末のNYダウは750ドル超下落して終わっています。週明けの動きに注目したいです。

米国株は軒並み高値圏まで値を戻しているため、下げ始めたら大きく下がる危険があります。

中東地域の他の国まで巻き込んで、ホルムズ海峡も封鎖というような事態になれば日本にはエネルギーが入ってこなくなります。

すでに原油価格は急騰し、1バレルが70ドルを超えています。原油価格の上昇がおさまらないと世界的にインフレが加速する可能性があります。資源国通貨には追い風になるかもしれませんが、さらに、今週は各国での金融政策の発表が続きます。

日銀金融政策決定会合、FOMCだけでなく、英国、スイスも政策金利の発表があります。

日本も米国も金利は据え置きとの予想が多いですがサプライズもあるかもしれないということで、リスク管理は厳重にしたいです。

地政学リスクに金融政策発表、関税交渉の行方などニュースでいつ乱高下が起こるかわからないという状況なので、レバレッジは低めで慎重にトレードしていきたいです

19日は米国がジュンティーンズ(解放の日)で祝日です。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週のドル／円は方向感があまりない動きとなりました。

142 円台ではなんとか反発しましたが上値も重い状況です。

142 円を割り込むと140円割れのリスクが高まるため注意がいります。

上値は145. 5円を超えてくれば146. 3円を目指す動きが出そうです。

142－146. 3円のどちらにブレイクするかに注目したいです。

<気になるクロス円>

クロス円は欧州系の通貨ペアは比較的堅調な動きですが、オセアニア通貨や南アフリカのランドは下げてきているため注意がいります。

ユーロは週足で見ても陽線が続いているため上昇がいつまで続くかです。

米国との関税交渉次第で通貨にも影響が出る可能性があるためニュースも見ておきたいです。

また、地政学リスクについては有事のフランになるか円になるかドルになるかに注目したいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀金融政策決定会合、植田・日銀総裁定例会見、5月貿易統計、4月機械受注、5 月全国消費者物価指数、日銀金融政策決定会合議事要旨、植田・日銀総裁発言などがあります。

米国では 6 月ニューヨーク連銀製造業景気指数、5 月小売売上高、5 月鉱工業生産、6 月NAHB住宅市場指数、5 月住宅着工件数、前週分新規失業保険申請件数、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、4 月対米証券投資、6 月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、5 月景気先行指標総合指数などの発表があります。

欧州では、ドイツとユーロ圏で 6 月ZEW景況感調査、ユーロ圏で 5 月消費者物価指数などがあります。

ほかには、スイスと英国で政策金利、英国で 5 月消費者物価指数、ニュージーランドで 1－3 月期GDPの発表などがあります。